

フラッシュユ

JA青森



2024あおもり桜マラソン（4/21）

青森市で「2024あおもり桜マラソン」が開かれ、4021人のランナーが青森市内を駆け抜けた。

JA青森の協賛は今年で3回目。JA共済の地域貢献活動事業を利用し、フィニッシュ地点の協賛ブースにてリンゴジュースを無料配布。参加者からは「リンゴジュース大好きなのでください」「冷たくておいしい」等喜びの声が上がった。

JAつがるにしきた



栽培管理を徹底（3/27）

JAつがるにしきたつがるやさい部会は、稲垣花き育苗センターでブロッコリー栽培講習会を開き、生産者約20人が参加した。

講師は「適正な肥培管理を行い、4月上旬の早植えの場合は保温対策を行うことが重要。1回目の追肥は定植7日後を目安とし、追肥遅れのないように」と栽培ポイントを説明した。

JAごしょつがる



農作業事故 VRで模擬体験（4/15）

JAごしょつがるは、年金受給日に合わせた来店感謝イベントを本店と各支店で開いた。

イベントでは年金受給者へ粗品を進呈する他、JA農産物直売所の出張販売を実施。今回は新たに農作業事故をVR体験できるコーナーを設けた。農作業が本格化する前に体験してもらうことで、事故の未然防止に役立ててもらおうことが狙い。

JAつがる弘前



リンゴ防湿段ボールで出荷開始（4/16）

JAつがる弘前は4月から、リンゴの梱包資材の発泡スチロール製の代替品として、防湿段ボールの使用を始めた。燃油等の価格高騰を受けたコスト削減と、環境への配慮に向けた取り組み。

防湿段ボールはリンゴの水分や鮮度を十分に保ったまま出荷先に届けられる。段ボールに「SDGs 未来都市 ひろさき」の文字を記載、新鮮さを感じる水色をベースに配色した。

中学生が修学旅行でリンゴ販売（4/11）

弘前市立相馬中学校の3年生16人が、東京都のあおもり北彩館東京店で、JA相馬村のリンゴとリンゴジュースを販売した。

この取り組みは修学旅行中の体験の一つで、コロナ禍のため中止していたが、今年5年ぶりに復活。JAのサンふじ100個、100%リンゴジュース90本を販売し、1時間弱で完売となる人気ぶりだった。

JA相馬村





JA津軽みらい

かまくらりんご掘り起こし（4/18）

JAの直売所「あっぷるはうす・おふくろの店」の会員で構成するかまくらりんごの会は、黒石市で冬越させたりんご、「かまくらりんご」を掘り起こす作業を行った。「かまくらりんご」は今年で17年目、即売会ですぐに完売する人気商品。

会員らは今年1月に埋めた25箱（20^{kg}／箱）を重機やスコップを使って雪の中から掘り起こした。



JAゆうき青森

トマト栽培講習会（4/23）

JAゆうき青森野菜振興会トマト部会は、七戸町のほ場でトマト栽培講習会を開いた。

講習会には生産者11人が参加。講師からはハウス内の温度が12度以下にならないように温度管理を徹底することや、昨年初めて七戸町内でも発見された外来害虫「トマトキバガ」の発生に注意することが呼びかけられた。

春掘りナガイモが出荷開始（4/10）
JA十和田おいらせで春掘りナガイモの出荷が始まり、最も需要が高まる夏場の販売に向け、安定した品質と数量を出荷し農家所得の増大を目指す。
掘り取り後は、土付きのままJAに運搬し、4度に保った冷蔵貯蔵施設で一時保管。洗浄後に大きさや品質ごとに選別し、首都圏を中心にピーク時で日量約40トを出荷する。出荷は11月まで続く。



JA十和田おいらせ

病害虫の予防除の徹底を（4/19・24）
おいらせ農協やさい推進委員会にんにく部会は、にんにく栽培講習会を開催し、六戸地区で約50人、三沢地区で約30人の生産者が参加した。講習会では生育観測等の状況報告と病害虫防除、今後の管理作業について説明し、昨年の管内での農作業事故等が多かったことから農作業事故防止も併せて呼びかけた。



JAおいらせ



JA八戸

銘柄牛を味わい「牛こん」で交流（3/17）

JA八戸は、八戸市で「第5弾牛こん in JA八戸」を行い、管内の独身男女16人が参加した。

JAでは管内の結婚を望む独身男女や農業の担い手を応援するため、2014年に「出会いサポートの会」を設立、出会いの場となるイベントや情報提供を行っている。畜産総合部会の後継者の会と連携、管内のブランド牛「倉石牛」や「田子牛」のステーキ等を楽しんだ。

JA青森県青協 通常総会

県農協青年部協議会（JA青森県青協）は4月8日、県農協会館で第71回通常総会を開いた。役員や部員ら43人が出席し、提出された4議案について全て承認された。

佐々木祐輔委員長はあいさつの中で、2023年度の活動成果を報告した。JA青森県青協が3年間独自に取り組んできた「あおもり農業男子」は、メディアへの露出や農業男子カードの配付等を通じ、県産農産物の知名度アップに貢献。

若手農業者が課題解決に向けて意見を出し合うことを目的に24年1月から始めた「政策提言プロジェクト」では、経営管理や労働力確保等さまざまなテーマで話し合いを進めた。若手農業者が情報やアイデアの共有を図る絶好の機会となったため、24年度以降も継続していく。

来賓のJA青森中央会雪田徹会長は、「農業をとり巻く情勢は依然厳しいが、より一層盟友同士の絆を深めてほしい」と激励の言葉を述べた。

佐々木委員長は今回の総会で退任となり、斗沢正和氏が新委員長に就任した。



▲就任のあいさつをする新役員と顧問ら

営農指導初任者研修会

JA青森中央会は4月18・19日、県農協会館で営農指導初任者研修会を開き、県内JA職員8人が参加した。新規採用や部署異動で営農指導担当になったJA職員が対象で、組合員のニーズに応えられる営農指導員の育成が目的。

1日目は「営農指導論」と「農家の会計・税務入門（前半）」、2日目は「農家の会計・税務入門（後半）」と「営農指導員としてのコミュニケーション」について学んだ。

「営農指導論」で講師を務めた同中央会農業対策部の阿保潤司次長は、「農協の存在意義を改めて確認し、組合員のために何が出来るかを常に念頭に置いて業務にあたってほしい」と参加者らに呼びかけた。

参加した営農指導部署1年目のJA職員は「目指すべき指導員像について考えるいい機会となった」と感想を述べた。



▲講義をする同中央会阿保次長

JAトップセミナー・家の光三誌・日本農業新聞キックオフ大会

JA青森中央会は4月23日、青森市でJAトップセミナーと家の光三誌・日本農業新聞キックオフ大会を開き、県内JA役職員ら約60人が参加した。

同中央会の雪田徹会長は「新たな基本法への理解を深めるとともに、家の光三誌並びに日本農業新聞の普及・活用を通じた情報発信に対する意思統一を図る機会としていただきたい」とあいさつした。

JAトップセミナーでは、日本農業新聞論説委員の齊藤将実氏が「食料・農業・農村基本法」改正の方向性や、制定後の望ましい農業構造実現に向けた農業支援サービスの可能性等について講演した。

キックオフ大会では、家の光協会東日本普及文化局の魚谷副局長と日本農業新聞東北支所の船津支所長がそれぞれ情勢報告をした。



▲改正基本法について講演する齊藤論説委員

行事（5/10～6/10）

5月

- 10日 特別対策地域における現地打合せ（弘前市りんご公園、五所川原市役所）
- 10日 第1回新規就農者支援対策作業部会（県農協会館）
- 10日 第1回農業労働力確保対策作業部会（県農協会館）
- 15日 県参協定例会（アートホテル青森）
- 15～16日 中堅職員研修会1（県農協会館）
- 16日 県農協生活指導員連絡協議会通常総会（県農協会館）
- 17日 JCA学習会・IYC2025説明会および協同組合間提携5団体事務局会議（県農協会館）
- 22日 県女性協第2回定例理事会（県農協会館）
- 23日 第1回JA広報担当部長・担当者会議および日本農業新聞通信員会議・研修会（県農協会館）
- 31日 第1回農業委員会・農業協同組合担当者会議（アスパム）
- 31日 農業委員会・農業協同組合初任者研修会（アスパム）
- 31日 次世代リーダー育成研修会オリエンテーション（県農協会館）

6月

- 3日 県JA女性大会・夏期研修会（県農協会館）
- 5日 総務担当常勤理事会議（県農協会館）
- 6～7日 管理者研修会1（県農協会館）
- 7日 定例理事会（県農協会館）

令和6年度 青森県JA信用・共済事業 合同推進大会を開催

JAバンク青森は4月24日、青森市でJA共済連青森と合同で「令和6年度青森県JA信用・共済事業合同推進大会」を開催した。

本大会は、信用・共済事業の更なる実績拡大と相互連携強化を目的として、信共同で開催したもので、県内JA役職員約120名が参加した。

開会にあたり、JAバンク青森運営協議会議長ならびに全共連青森県本部運営委員会会長の雪田徹JAグループ青森四連会長が「昨年度は肥料・飼料・資材価格が高騰したほか、夏の記録的猛暑により県内農産物の品質に多大な影響を与える等、組合員の生産活動およびJA経営にとって大変苦勞の多い1年間であった。県内JAを取り巻く環境は依然として厳しい状況が続くことが見込まれるが、信用事業・共済事業においては顧客のライフステージに沿った提案活動を実践していくことが重要である。組合員・利用者の目線に立つて両事業の連携を強化していくことが重要であり、本大会を1つの契機として信用・共済事業の更なる発展を期待する」と挨拶。

続いて、農林中央金庫の川田淳次常務執行役員、全国共済農業協同組合連合会の高橋一成代表理事常務から激励の言葉があった。

また、信用・共済の各事業の今年度の施策・方針について説明があり、信用事業では、JAバンク青森中期戦略の最終年度の施策として、農業・くらし・地域の各領域で、JAが一層の金融仲介機能を発揮し、「目指す姿」を実現していくため、農林中金も各種施策の立案・サポートを実践していくことを確認した。その後、JA十和田おいらせ柴田宣敬金融部長とJA津軽みらい瀧川智共済部長により、各事業の県下目標達成に向けた決意表

明が行われ、JAゆうき青森村山淳一常務理事の発声による「がんばろう三唱」で目標達成を祈願した。

最後に大場勉副議長・副会長が「JAバンク青森中期戦略令和6年度施策ならびに令和6年度普及活動方針に総力を結集し取り組んでいくことが、組合員・利用者の負託に応え、更には青森県の農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たすことができる」と挨拶し、閉会した。なお、大会では令和5年度の県域表彰も行われた。

受賞JAと受賞店舗は次のとおり。

【優績JA表彰】

最優秀 JAつがるにしきた
優秀賞 JAおいらせ
奨励賞 JAつがる弘前

【優績店舗表彰】

最優秀賞 JAつがる弘前 弘前西支店
優秀賞 JAおいらせ 本店
奨励賞 JAつがる弘前 弘前中央支店
敢闘賞 JA八戸 下長支店
同 JAつがる弘前 弘前北支店
同 JAつがるにしきた 鶴翔支店
同 JAつがる弘前 大鰐支店
同 JAつがるにしきた つがる支店
同 JA津軽みらい 平賀支店
同 JA十和田おいらせ むつ支店



▲県域表彰を受賞したJAならびに店舗の代表者

行事 (5/10~6/10)

農林中央金庫

5月

13日 国庫金振込事務研修 (*)
14日 ローンセールス研修 (県農協会館)
15, 16, 21日 貯金為替初任者研修 (*)
22日 融資初任者研修 (*)
23~24日 信用事業新任管理者研修 (*)
26日 FP技能検定試験 (各会場)
30日 信用事業入門研修 (*)

6月

2日 銀行業務検定/コンプライアンスオフィサー認定試験 (*)
4日 住宅ローン提案型営業研修 (県農協会館)

5日 融資初任者研修 (*)
6~7日 信用事業新任管理者研修 (*)

農協電算センター

5月

10~30日 営業店システム端末操作研修・7回開催 (県農協会館)
13, 24日 営業店システム座学研修・2回開催 (*)

6月

4~6日 営業店システム端末操作研修・2回開催 (県農協会館)
7日 臨時取締役会 (県農協会館)
(*)はウェブ会議

人形供養祭

JA全農あおもりは3月10日、つがる市のやすらぎホールつがるで人形供養祭を開いた。約350人の来場者があり、数多くの人形が同ホールに集まった。

地域組合員に対する感謝と、ホールのさらなる浸透・施設紹介を目的に企画したもの。

集まった人形は、つがる市の實相寺、間宮秀文住職が読経し供養した。

供養読経後は、津軽民謡歌手のかすみさん、石川義梅会による唄・手踊りなどの催しを開いた。

また、60歳以上先着40名様には、生前遺影写真撮影会を無料で提供した。

令和4年11月には黒石市のやすらぎホール黒石で、5年1月には鱒ヶ沢町のやすらぎホール鱒ヶ沢で開き、今回で3度目の開催。全農あおもりは今後もホールの認知促進、JA葬祭事業の拡大に努めていく。



▲住職による供養

青森県産農産物を使用した新商品開発

JA全農は全国の産地を応援する「ニッポンエールプロジェクト」の一環として、食品メーカー6社と協力し「東北産地応援」をテーマに青森県産農産物を使用した新商品を開発した。

新商品は6種類。県産米「まっしぐら」を使った「お〜いお茶 玄米茶」、ごぼうを使った「青森県産ごんぼのキムチ」、にんにくを使った「ガーリックラスク」、りんごを使った「りんごシベリア」「りんごのカヌレ」「青森県産ふじ&世界一を使用したWりんごサワーの素（仮称）」。

3月26日にはJA全農あおもりの雪田徹会長をはじめとした関係者らが宮下宗一郎青森県知事を

表敬訪問し、商品の紹介を行った。

雪田会長は「青森県産農産物の認知度向上や消費拡大、生産者の方の栽培意欲の向上に繋がっていたら」と話した。

「ニッポンエールプロジェクト」とは、全農とメーカーおよび販売先が協力して、国産農畜産物のPRやキャンペーン等を展開し、商品を通じて産地を応援していくことを目的とした活動。

「お〜いお茶 玄米茶」「ガーリックラスク」「りんごシベリア」「りんごのカヌレ」は全国で、「青森県産ごんぼのキムチ」はスーパー「ユニバース」で販売中。「青森県産ふじ&世界一を使用したWりんごサワーの素（仮称）」は6月から全国で発売予定としている。



▲宮下知事へあいさつをする雪田会長

県産米消費拡大キャンペーン



詳細はこちら

青森県りんご共防連・共済会総代会

青森県りんご共同防除連絡協議会・共済会は4月5日、青森市の県農協会館で総代会を開き、令

和6年度計画を承認した。

近年、高齢化に伴う組織の弱体化が進行しており、SS（スピードスプレーヤー）による事故発生や県共防連からの離脱と解散が跡を絶たないことから「高齢化に伴う担い手不足、オペレーター不足に対処した人材の確保育成」を重点実施事項とした。後継者の育成・確保や新規就農者の掘り起こしと共防へ加入しやすい環境づくり、モデル共防を選定し、後継者や世代交代時期などの「見える化」した将来ビジョンの策定を中心に取り組む。

他にも「計画的なSSの更新」や「効率的な防除体制の整備と安全・安心な魅力ある環境づくり」、「共防組織の活動強化」、「弱体化している共防の離脱・解散阻止などの組織体制の再編強化」についても重点事項に位置づけた。

長内幸之修会長は「夏場の記録的な高温・干ばつに見舞われ、栽培管理に苦慮したと思われる。台湾輸出においては、検疫対象害虫に指定されるモモシクイガ対策として県の『モモシクイガ特別防除対策事業』が創設された。交信かく乱剤の普及推進に向けて積極的に取り組む。」と述べた。

共防組合活動の発展に貢献した6人に共防功労賞を贈呈した。受賞者は次の通り。（敬称略。かっこ内は地区連名。）

▽共防功労賞

【個人】齋藤豊治（浪岡）、菊池昭二（つがる市柏）、吉谷俊貴（弘前市）、三上金義（JA相馬村）、大川聰純（大鰐）、遠藤太悦（三戸）



▲共防功労賞の贈呈を受ける受賞者ら



行事（5/10～6/10）

5月

- 10日 春掘りながいも販売対策会議（上十三広域農業振興会）
- 31日 令和6年度やさい・花き取扱会議（県農協会館）

6月

- 7日 運営委員会（県農協会館）
- 10日 令和6年度やさい・花き販売懇談会（ウェディングプラザ アラスカ）

交通安全啓蒙資材寄贈式の開催

JA共済連青森は4月2日、青森市の青森県農協協会で「令和6年度JA共済交通安全啓蒙資材寄贈式」を開催し、交通安全啓蒙資材を一般財団法人青森県交通安全協会に寄贈した。

式では、JA共済連青森の沼田博文本部長が、一般財団法人青森県交通安全協会の沼田廣会長に交通安全啓蒙資材を手渡し、「交通事故が1件でも減らせるようご活用ください」と述べた。

沼田廣会長は「新型コロナウイルス感染症が落ち着き、外出が増えて交通事故が増加しており、寄贈いただいた資材がより活用できます」と述べ、平成22年度から実施している本会の取組みに感謝の意を込めて感謝状を手渡した。

この活動は、交通事故未然防止活動の一環として、一般財団法人青森県交通安全協会の取組みを支援する目的で実施している。

今年度は、「変わりました自転車安全利用五則」と「春の全国交通安全運動」のチラシ合計1万3500部と「ポケットティッシュ」8,000個を寄贈した。

なお、令和6年度は今回の他、秋の全国交通安全運動期間に合わせて交通安全啓蒙資材を寄贈する予定である。



▲寄贈した交通安全啓蒙資材を持つ沼田会長（左）と沼田本部長（右）

ラッピングバス運行式の開催

JA共済連青森は4月4日、弘南バス弘前営業所で「JA共済交通安全ラッピングバス運行式」を行った。交通事故未然防止活動の一環として、地域住民の交通安全思想の啓蒙を図ることが狙い。

交通安全をテーマに掲げたスローガンをカラフルなイラストで車体両側面とフロントマスクにラッピングしたバス3台を活用し、運転者や歩行者・自転車利用者に危険運転の根絶を訴え、来年3月まで交通事故防止を呼び掛ける。

運行式において、JA共済連青森の沼田博文本部長は「地域の方々の交通安全に対する意識向上と交通事故の未然防止に貢献し、1件でも交通事故が少なくなることを願っています」と挨拶した。

その後、運行の無事を祈って弘南バス、青森県警察本部、青森県交通安全協会、農協関係者らが

共にテープカットを行った。

スローガンは以下の全9種類。

- 「今日もまたあなたの無事故待つ家族」
- 「挙げる手をやさしく見守る横断歩道」
- 「飲みません今日は私がハンドルキーパー」
- 「さあ青だ踏み出す前に再確認」
- 「反射材光って気づいて事故防止」
- 「自転車も歩行者優先安全走行」
- 「しんごうきあおでもかくにんわすれない」
- 「見つけてねピカピカぼくのはんしゃざい」
- 「ちょっと待て車のかげからもう1台」



▲交通安全のスローガンがデザインされたバスの前でテープカットを行った参列者（弘南バス）



▲ラッピングバス

クリアファイル寄贈式の開催

JA共済連青森は4月8日、青森県庁でJA共済連青森主催の書道・交通安全ポスターコンクールの令和5年度最優秀作品をプリントしたクリアファイルを県内各小・中・特別支援学校に寄贈した。

式では、JA共済連青森の沼田博文本部長が、青森県教育庁学校教育課の下山敦史課長にクリアファイルを手渡した。

沼田本部長は「小・中学生の書写教育、美術教



▲寄贈したクリアファイルを持つ下山課長（右）と沼田本部長（左）

育に貢献するとともに、交通安全思想を広く周知することを願い寄贈いたします」と述べ、下山課長は「次世代を担う小・中学生が助け合いの精神や交通安全の大切さを感じていただくきっかけとなります」と感謝した。

この活動は、文化支援活動および交通事故未然防止活動の一環として、平成27年度から実施している。今年度は86,168枚を寄贈した。

Lablet's 操作研修会の開催

J A 共済連青森は、4月12日・18日に青森市の県農協会館で「Lablet's 操作研修会（新任L A・新任スマイルサポーター・共済担当者コース）」を開催した。

12日は新任L A、18日は新任スマイルサポーター・共済担当者を対象とし、Lablet's を活用してペーパーレスおよびキャッシュレス契約締結手順等を習得することで、お客様対応力の向上を図ることを目的としている。

研修では Lablet's 導入の目的・めざすところや端末機共通の基本操作、コロンブスの各種機能と契約申込手続き等の操作方法などについて講師から説明が行われた。

今後スマイルサポーターや共済担当者として活躍していくために、知識を吸収する意欲的な姿勢が参加者から伝わってきた。



▲研修会の様子

生徒向け自転車交通安全教室の開催

J A 共済連青森は、青森県警察本部と連携して、4月10日むつ市立田名部中学校、11日青森市立荒川中学校、16日南部町立福地中学校、22日十和田市立東中学校で「生徒向け自転車交通安全教室」を開催した。

この教室では、スタントマンが危険な自転車走行に伴う交通事故の実演により、事故の衝撃や恐ろしさを実感することで、ルールやマナー違反が交通事故を招く危険性があることを教え、自転車交通ルールの理解と実践を呼びかけている。

参加した生徒たちは、スタントマンによる交通事故場面の再現で、自転車運転中やトラックの内輪差での巻き込み事故を目の当たりにして、事故の恐ろしさを実感していた。

10日に開催した田名部中学校の生徒代表は、「スタントマンの交通事故場面の再現を見て、今日学んだことを登下校時に意識して安全に学校生活を過ごしていきたいと思う」と述べた。



▲交通事故を再現するスタントマン（10日むつ市立田名部中学校）



▲トラックによる巻き込み事故の再現（11日青森市立荒川中学校）



▲自転車事故の再現（16日南部町立福地中学校）



▲交通事故の再現（22日十和田市立東中学校）

行事（5/10～6/10）

5月

- 13日 J-SMILE 研修会「窓口の基本」編（県農協会館）
- 14日 共済担当部長会議（県農協会館）
- 17日 収納・共済資金管理事務基礎研修会（オンライン）
- 22日 共済代理店新任担当者研修会（オンライン）
- 23日 共済担当次課長会議（県農協会館）
- 23～24日 共済事務インストラクター養成研修会（県農協会館）
- 28日 J A 共済きずなの青い森プロジェクト（平内町）
- 28～29日 J-SMILE 研修会「自動車」編（県農協会館）
- 29日 書道・交通安全ポスターコンクール審査員会議（県農協会館）

6月

- 3日 J A 審査員養成研修会（共通コース）（県農協会館）
- 4日 共済代理店担当者研修会（県農協会館）
- 5日 J-SMILE 研修会「長期」編（県農協会館）
- 7日 運営委員会（県農協会館）
- 8日 アンパンマン交通安全キャラバン/J A つがるにききた・J A ごしょつがる（柏ふるさと交流センター ハーモニー未来館）

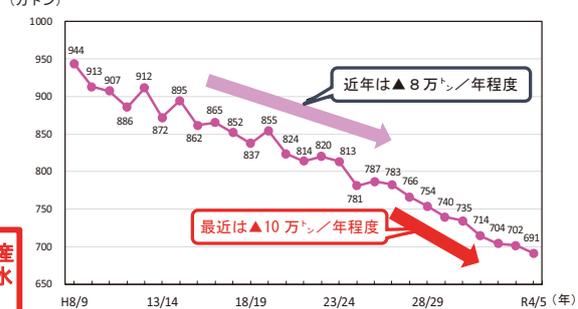
主食用米等の令和5/6年及び令和6/7年の需給見通し (令和6年3月公表基本指針)

令和6年産主食用米等の生産量の見通しは、今後も需要量が毎年10万トン程度減少することが見込まれる中で、引き続き、各産地で需要に応じた生産・販売を行っていく必要があることから、令和5年産主食用米等の生産量の見通しと同水準の669万トンと設定されています。

【令和5/6年の主食用米等の需給見通し】

		(単位:万トン)	
令和5年6月末民間在庫量	A	197	→ 194 <<3>>
令和5年産主食用米等生産量	B	661	見通し 669万トン
令和5/6年主食用米等供給量計	C=A+B	858	
令和5/6年主食用米等需要量	D	681	
令和6年6月末民間在庫量	E=C-D	177	

主食用米の需要量の推移



【令和6/7年の主食用米等の需給見通し】

		(単位:万トン)	
令和6年6月末民間在庫量	E	177	
令和6年産主食用米等生産量	F	669	見通し 669万トン
令和6/7年主食用米等供給量計	G=E+F	846	
令和6/7年主食用米等需要量	H	670	
令和7年6月末民間在庫量	I=G-H	176	

相対取引価格と民間在庫量の推移



注1：欄外の記載は、コロナ影響緩和と特別対策（特別枠）に取り組む令和2年産米を除いた場合の見通しであり、<< >>書きは特別枠に係る取組数量。
注2：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

令和6年産に向けた水田における作付意向（令和6年1月末時点）

令和5年産実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、増加傾向が5県、前年並みが30県、減少傾向が11県となっています。

青森県については、主食用米の作付意向は、前年実績対比で増加傾向となっています。

【令和6年産米等の作付意向（前年産実績との比較、令和6年1月末時点）】 ※下段[]は、前年同時期の作付意向

	主食用米	戦略作物							備蓄米
		加工用米	新市場開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用米	麦	大豆	
前年より増加傾向	5県 [0県]	17県 [15県]	19県 [18県]	17県 [16県]	3県 [11県]	18県 [20県]	17県 [23県]	5県 [16県]	2県 [6県]
前年並み	30県 [35県]	18県 [27県]	17県 [18県]	22県 [24県]	17県 [25県]	23県 [21県]	16県 [14県]	19県 [15県]	10県 [22県]
前年より減少傾向	11県 [12県]	8県 [2県]	1県 [3県]	5県 [5県]	25県 [10県]	4県 [4県]	11県 [8県]	20県 [14県]	18県 [5県]

【青森県の令和6年産米等の作付意向（令和6年1月末現在）】

	主食用米	戦略作物							備蓄米
		加工用米	新市場開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用米	麦	大豆	
青森県	↗	↘	↗	↗	↘	→	↘	→	↘

注：主食用米、戦略作物及び備蓄米の「令和6年産意向（対前年実績）」は、令和5年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。

国内花粉増産に向け開葯所増設 葯採取機の実演会開く

J A つがる に きた は、中国産輸入花粉が購入できなくなったことに対応するため、葯採取機と開葯庫を森田りんごセンターに増設。4月16日に葯採取機の実演会を行い、生産者ら約40人が参加した。

葉や枝が火にあぶられたような症状が出る火傷病が中国で発生したことを受けて、国では2023年8月から中国産ナシ・リンゴの花粉の輸入を停止している。輸入再開の目途がたっていないことから、リンゴ生産に万全を期すため、自家採取による花粉増産に向けた体制を構築。

参加した生産者は、開葯所の開設日時や利用手順、葯採取機の使い方を確認した。

今年の花粉開葯所は、森田りんごセンターで4月26日からふじの開花期まで開設する。



営農指導員全員が集結 今年度の指導体制や方針の意思統一を図る



J A つがる に きた は4月23日、つがる市柏地区のハーモニ未来館で営農指導員全体会議を開いた。関係者ら約60人が参加し、関係機関と情報共有を図った。

山中満春代表理事組合長が営農指導員の代表に委嘱状を交付。営農部営農課が今年度の営農指導スケジュールについて説明し、試験圃の設置計画や残留農薬・土壌分析についても細かく情報を共有した。関係機関か

らは各指導体制について実施策の説明があった。

J A の営農指導事業は時代の変化にあった対応が日々求められ、経営規模にあった営農技術の提案、経営指導が可能な人材の育成が急務となっている。今回の会議で、職員らは気持ちを新たに営農指導の果たす役割を再認識した。

J A では今後も関係機関と連携し、良品生産・反収の増加に繋がるよう組合員へ出向く体制を強化し、組合員に寄り添った営農指導の実践に努める。

実践 農業者支援

若手営農指導員による営農指導事業 meeting

本会では、令和5年度から「若手営農指導員による営農指導事業 meeting」を実施しています。当研修は、若手営農指導員が日常業務から感じた課題を可視化し、営農指導事業が今後果たすべき役割について実践的な提案をするための学習を目的としています。今回は令和5年度における実施結果と令和6年度の実施計画を紹介します。

1. 令和5年度の実施結果

令和5年度は、グループワークを中心に4回開催しました。

第1回（7月）若手営農指導員が抱える悩みや課題の抽出

日常業務を通じて感じた地域農業の課題や、営農指導事業の改善点について意見交換をしました。

主な意見	課題
他部門業務の兼務や事務作業による指導巡回の減少	営農指導員の「何でも屋化」による組織内外での位置づけの低下
組合員の要望への対応（雑務含む）	
営農指導部門の軽視（収益面から）	

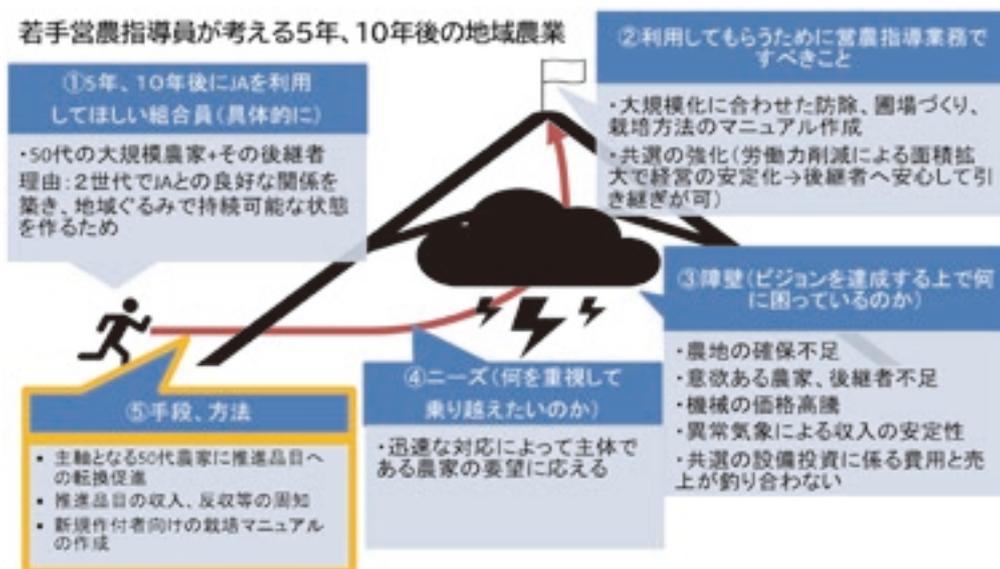
第2回（8月）営農指導事業の本来の姿についての検討

営農指導事業が本来行うべきとされる内容と現在参加者が行っている日常業務を比較し、改善点を検討しました。

業務の傾向	対策
充実：部会等の組織対応や技術指導	地域農業、農家組合員の将来に向けた業務の強化 ⇒営農指導本来の姿へ
不足：農業振興計画の策定や農家の経営診断	

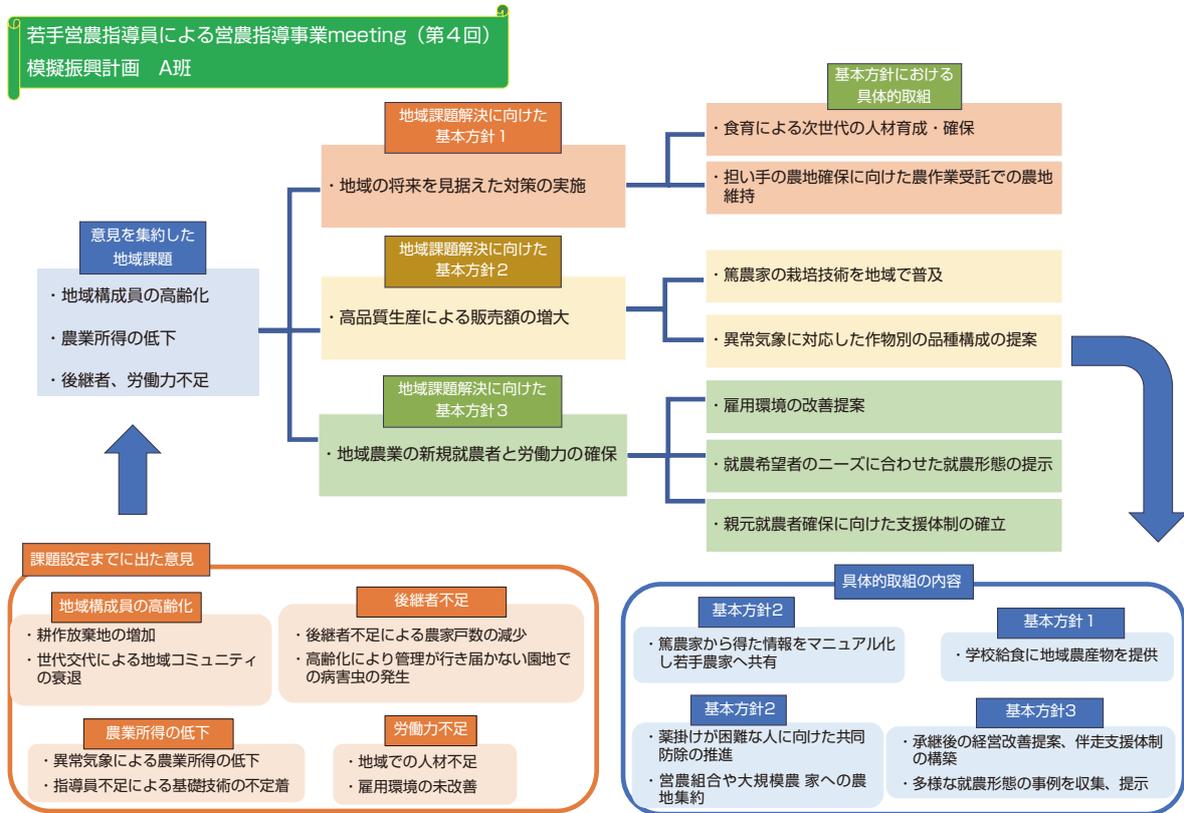
第3回（10月）地域農業の将来像と理想の営農指導像の実現に向けた検討

若手営農指導員が考える将来の地域像を可視化し、意見交換をしました。（下図は一例）



第4回（12月） 模擬振興計画の作成

第3回の内容を踏まえて、若手指導員が考える地域課題と解決に向けた具体的取組を示した模擬振興計画を作成しました。（下図は一例）



参加者の声（参加者アンケートより一部抜粋）

参加者 A：自身や所属部署内の業務内容に対する考え方が変わった。他の職員も参加させたい。

参加者 B：若手のうちから J A の組織内外にかかる問題を検討することで視野が広がり、仲間も増えるいい機会だった。

参加者 C：meeting を参考にした若手農家と若手職員の意見交換会を開催予定。来年も参加したい。

2. 令和6年度の実施計画

来年度は名称を「営農指導事業 meeting」へ変更し、年4回を目安に実施予定です。

(1) テーマ：営農指導事業の機能発揮に向けた業務の整理、改善

令和5年度の当事業にて、地域農業に係る業務の充実に向けた課題は以下2点が挙げられました。

- ▶ 現場の声（組合員）を聞く機会が減少し、地域課題を把握することが困難
- ▶ 他部門業務の兼務による営農指導業務の減少、労働時間の増加

上記課題の解決に向け、営農指導員の日常業務を点数化し、生産者の意見も反映した業務の見直し、改善について検討していきます。

(2) 参集範囲

40歳未満の若手～中堅営農指導員または営農部門職員

以上のように、将来の地域農業を担う営農指導員の育成を目指し、引き続き当研修に取り組んでいきます。皆様のご参加をお待ちしております。

（中央会 農業対策部）

経営の窓口

コンプライアンスの遵守について考える

1. はじめに

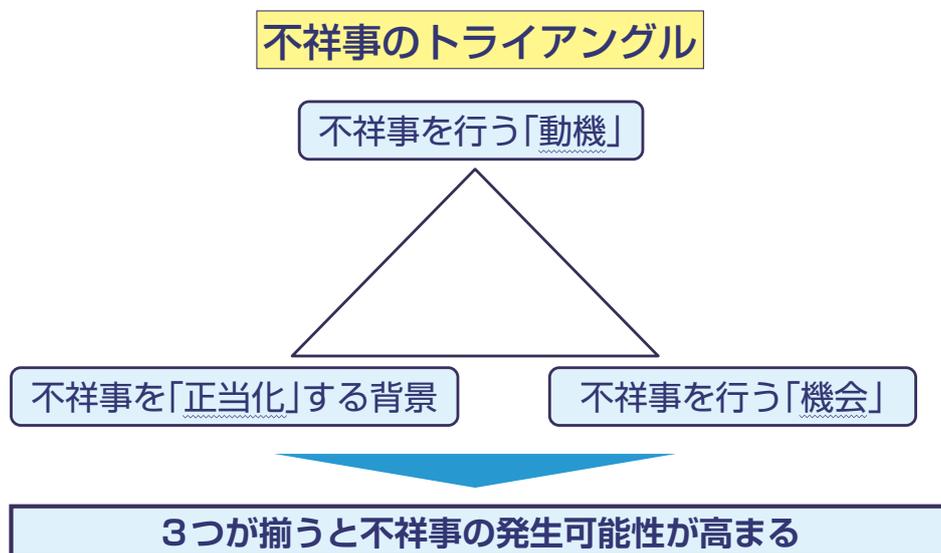
今年度も多くの新入職員がJAに入組したが、JAグループの職員には、コンプライアンスの遵守と毎年1回のコンプライアンス研修の受講が決められている。以下、コンプライアンスとは何かを見ていくことにする。

2. コンプライアンスとは

コンプライアンスはJA役職員一人一人が最低限守るべきことである。JA役職員が日常的に心がけるべきこととして、社会人として最低限のあるべき行動をとり、関係法令や社会規範、JAの内部規程等のルールを正しく守り、JAの果たすべき基本的使命・社会的責任に携わる者として、責任と誇りをもった行動をとることが、何よりも大切である。

業務目標の達成に向けて真剣に取り組めば取り組むほど、コンプライアンスを秤にかけて、不正行為を正当化し、不祥事を起こしやすいと言われている。おかしいと思ったことは口に出して言うことが大切であり、組織としてはそれができる職場環境をつくることも大切となる。

不正は一般的に、以下の「不祥事のトライアングル」といわれる3つの要素が揃うことで発生の可能性が高まる。



- ① 「動機」とは、経済的な問題や、業務上の問題およびプレッシャー等が原因となる。
- ② 「機会」とは、不正を実行できる環境のことを指す。
- ③ 「正当化」とは、不正行為を責任転嫁したり罪悪感から目を背けることで自身の行為を正当なものとして評価することである。

自分自身をこれらの状況から遠ざける状況に置くことが大切である。また、組織としてもこのような状況を作らないことが組織と職員を守ることになる。

3. コンプライアンス研修について

昨年から本会作成のコンプライアンス研修DVDを各JAへ送付し、それを活用して役職員のみなさまに研修を受講してもらう形式としている。また、様々なテーマの研修用DVDを本会で所持しており、各JAの実情に合わせてDVDを貸与しコンプライアンス意識の醸成を図っている。研修用のDVDの一例が以下のとおりである。

コンプライアンス関連DVDテーマ（一部抜粋）

- ・ 不祥事防止（着服・横領の防止）
- ・ 個人情報漏洩防止
- ・ 不正融資の防止
- ・ マネー・ロンダリング
- ・ 各種ハラスメント防止
- ・ 働きやすい職場環境の構築

今年度も本会作成のDVDを各JAへ送付することを予定している。マネー・ロンダリングの管理システムが本格稼働したことに伴う、マネー・ロンダリングに関するコンプライアンス研修の実施の依頼をいただいております。DVDの内容にもマネー・ロンダリングを加えたものにするべく検討している。

上記の研修用DVDと併せた研修を各JAで実施いただくことで、コンプライアンス意識の醸成の助力となるべく取り組んでいく。

4. さいごに

コンプライアンスを遵守することは、自らの身を守ることにもなる。そして、万が一不祥事に巻き込まれそうになったときは、素早く上席者に相談していただきたい。また、組織としても相談しやすい職場風土を作ることは、不祥事の防止のみならず、若手・中堅職員の離職防止にもつながる。コンプライアンス研修を形式的なもので終わらせるのではなく、組織の働きやすさ向上の一環として位置付けていただければ幸いである。

（中央会 経営対策部）



組織農政通信

令和6年度JAグループ青森における農政活動計画 ～青森県農協農政対策委員会の活動計画～

今回は、令和6年度JAグループ青森における農政活動計画（青森県農協農政対策委員会（以下、当委員会という。）の活動計画）について紹介する。

【Ⅰ 基本方針】

食料・農業・農村を取り巻く情勢は、気候変動や世界的な人口増加等、かつてないほど食料安全保障は脅かされ、その強化が喫緊の課題となっている。

また、生産現場においては、生産資材価格が高止まりを続ける中、生産コスト上昇分の価格転嫁が進まないことや昨年夏の記録的な猛暑や水不足による被害等により、農業経営に与える影響は大きく、厳しい状況が続いている。

こうした中、食料・農業・農村基本法改正案や基本法関連施策の具体化に向けて、集中的な国会審議がすすめられており、重要な局面を迎えている。

このような状況を踏まえ当委員会では、各JAでの組織討議を通じて要望事項や意見を集約し、国や本県選出国會議員に対し、要請活動を実施してきた。

特に、基本法関連施策の具体化に向けては、①食料安全保障の強化、②再生産に配慮した適正な価格形成の仕組みの法制化と経営安定対策の強化、③多様な経営体への支援等を当委員会の重点要請内容として決定し、令和5年12月本県選出国會議員に対し要請した。

農政の指針となる「新たな基本法」のもとで、将来にわたる食料安全保障の強化はもとより、本県農業を確実に前にすすめていくため、国、本県選出国會議員や県等に対して引き続き必要な対策の実施を求めていく。

あわせて、再生産に配慮した適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容に向け、国民および県民に対し、JAグループ独自のキーメッセージである「国消国産」を訴え理解醸成を図るとともに、その行動変容へ向けた取組みを進めていく。

【Ⅱ 運動の目標】

当委員会では、次の2つを運動の目標として活動を展開する。

1. 農業・農村発展に向けた農業政策実現のための運動展開
2. 食料・農業・JAへの理解醸成をはかるための運動展開

【Ⅲ 実施計画】

当委員会では、運動の目標を達成するため、次の取組みを行う。

1. 農業・農村発展に向けた農業政策実現のための運動展開

（1）自由貿易対策

相次ぎ発効している大型自由貿易協定に関して、その動向を定期的に情報提供するとともに、将来にわたって組合員が安心して営農活動を継続できるよう、県選出国會議員等へ要請する等、必要な活動を展開する。

（2）農業政策に関する活動強化

- ①本県農業の振興と農業所得向上に向け、水田・青果・畜産等の農業政策、農業予算対策および農家・JAへの税制対策等に関して、全国、北海道・東北地区のJAと連携した活動に取組む。
- ②「食料・農業・農村基本計画」や「TPP等関連政策大綱」に基づき、食料安全保障の強化、

再生産に配慮した適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容、小規模・家族経営も含めた生産基盤強化対策等の着実な推進に向け、全国、北海道・東北地区のＪＡと連携した活動に取り組む。

- ③「農政情報」発行等による情報提供や農政学習会、県選出国會議員等との情報交換会を開催する。
- ④予期せぬ自然災害に対し、組合員の経営維持等のための支援について、国・県等に対し要請活動を実施する。

2. 食料・農業・ＪＡへの理解醸成をはかるための運動展開

(1) みんなのよい食プロジェクトの展開

ＪＡグループが進める「みんなのよい食プロジェクト」を通じて、県民各層に対して、「食」「農」「協同組合」の理解醸成を図るとともに、国産・県産農畜産物への理解や消費拡大に取り組む。

(2) 適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容へ向けた取り組み

再生産に配慮した適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容に向け、「国消国産の日」イベントやＪＡふるさと市の開催を通じて、広く県民に対し訴えていく。

(3) 小・中学生や高校生、一般消費者に対する農業理解および県産農畜産物の消費拡大対策

児童、生徒に農業の果たす役割や食の大切さを一層理解してもらうために、バケツ稲づくり体験、「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの実施や社会科教材資料「いのちはぐくむあおりの農林水産業」の発行、農業高校生等を対象とした出前授業やＪＡ施設見学等の実施により、農業・ＪＡの理解醸成に取り組む。また、東奥日報社と連携し、県内一般消費者に対する「食」「農」「協同組合」の理解醸成、国産・県産農畜産物への理解や消費拡大に向け、「女子マルツアー」を実施する。

(4) 報道機関関係者等への情報発信の強化

農業・ＪＡへの理解醸成のために、報道機関との意見交換会の開催、報道機関等への情報発信強化に取り組む。

(5) 地域諸団体との連携

他の協同組合や社会福祉協議会等との連携により、農業振興と地域貢献の取り組みをすすめる。また、物価高騰等により経済的に困窮している世帯や子ども食堂等への食支援を通じて、県産農畜産物への理解醸成に取り組む。

以上が、当委員会における令和6年度の活動計画である。各ＪＡにおいて設置されている農協農政対策委員会とは、引続き連携した取り組みを実施させていただくとともに、今後の取り組みの参考にしていただければ幸いである。

(中央会 農業対策部)



【参考】みんなのよい食プロジェクト

ＪＡグループが進める、心と体を支える食の大切さ、国産・地元産の豊かさ、それを生み出す農業の価値を伝え、国産・地元産と日本の農業のファンになっていただくという運動



JAアオレン「りんご搾りかす」乾燥品を活用した取組み

青森県産りんご果汁100%ジュースでおなじみのJAアオレンでは、高熱を利用せず低温・低コストで「りんご搾りかす」を乾燥させる国内初の大型乾燥機「レドックスマスター」を2019年に導入致しました。

高熱処理しない乾燥品は、高熱による炭化、酸化がなく成分・栄養素が保持できるため資源として幅広く活用でき、環境負荷低減にもつながると期待されています。



国内初の大型乾燥機「レドックスマスター」

「りんご搾りかす」と「コーヒー豆かす」乾燥品を活用した取組み

令和3年から、「りんご搾りかす」と「コーヒー豆かす」乾燥品をブレンドして「あおり倉石牛」の飼料に活用しています。

令和6年4月1日から、これまで廃棄処分されていた県内コンビニ「コーヒー豆かす」を使用して、資源の有効活用と地産地消を目指す県内循環サイクルに取り組んでいます。



「りんご搾りかす」乾燥品の素材活用

アップルレザー

りんご搾りかす乾燥品を配合したアップルレザーは、植物性由来原料の活用を通じ環境に配慮した製品です。



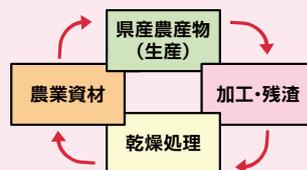
「ANA GreenJet」のヘッドレストカバー



王林さんがプロデュースする「アップルレザーバック」「アップルレザーキャップ」

農業資材

りんご搾りかす等からバイオプラスチック原料を生成。それから農業資材をつくりだし、その資材を生産者が使用することで、農産物生産の循環型資源活用を目指します。



【試作品】りんご用 20kgコンテナ



農林中央金庫 青森支店
J Aバンク総括班
やまもと みやこ
山本 美弥子 さん

輝き

●プロフィール

2022年4月から勤務 黒石市出身 26歳

— 働くきっかけは？ —

大学の実習で農家さんにインタビューを行う機会があり、一次産業に従事されている方々のやりがいや将来への悩みを聞いていくなかで、自分にできることがあればやってみたいという漠然とした思いがきっかけとなりました。

— 業務内容を教えて下さい。 —

主にJ Aあて経費精算業務を行っています。システム費用や研修費用等、様々な種類の経費精算業務が同時で進行するため戸惑うことも多くありますが、日々勉強しながら業務を行っています。

— 働いた感想は？ —

自分の力不足を実感しています。業務の内容上、直接的にJ Aの方々と関わることは少ないため、自分の仕事の向こう側に必ず相手がいるということをお忘れずこれからも取り組んでいきたいです。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

わからないことや経験したことがない事象が発生したときは、まずは自分で「調べ」「考える」ことを心がけ、自身の意見や解決方法をもった上で、周囲の人に相談するようにしています。

— 特技・趣味は？ —

最近車を購入したので、休みの日は友人を誘い、目的もなくドライブをすることが趣味の一つとなりました。

— あなたが自慢できることは？ —

フットワークの軽さです。人からおすすめされた場所や食べ物など教えてもらったらすぐ行動するので、おすすめのものがあればぜひ教えてください。

— 将来の夢は？ —

困ったときはこの人に聞けばわかるというような頼られる職員になりたいです。何事も新しい知識を得られるチャンスとして捉え、積極的に様々な業務に取り組んでいきたいです。また、プライベートでは猫を飼うのが夢です。



加工・業務用に参入
1億円販売し産地化

キャベツ部会長の乙部さん



J A ゆうき青森野菜振興会キャベツ部会は、会員数26人。7月から10月にかけて約2000トンのキャベツを加工・業務用として、関東から九州まで全18社に出荷する。

J A管内はナガイモやニンニク、ゴボウなどが基幹作物。作業時期がかぶらない輪作作物として、2016年からキャベツ出荷の取組みが始まった。産地化に当たり、人手不足による労働力の軽減を図るために鉄コンテナメインの出荷形態としたことで、年々売上高を伸ばしていった。

野菜振興会で部会を設立するためには、3年平均の売上高1億円の突破が条件で、23年度に見事達成。同年度の野菜振興会の通常総会で設立が認められた。キャベツ部会は野菜振興会で最も新しい部会で、部会長を務める乙部さん(36)は、野菜振興会の中で最年少の部会長。会員の平均年齢も低く若手が多いので、これから期待できる部会。

昨年は、猛暑が続いたことから高温障害が発生し、出荷量が計画の80%となった。乙部部会長は「いかなる天候でも需要に応えられる産地として、会員と知識を高め、J Aと協力をし、部会の存在感を高めていきたい」と意気込む。

J A人の動き

○J A津軽みらい (令和6年4月11日付)
代表理事組合長

工 藤 友 良 (新)

○J Aごしょつがる (令和6年5月1日付)
代表理事常務(経済担当)

工 藤 良 二 (新)

新風

J A津軽みらい

栽培実証、輸出視野に
サツマイモの産地化

J A津軽みらいでは生産者の所得向上に向けて、サツマイモの産地強化と販路開拓に取り組んでいる。

近年サツマイモの海外需要が高まっていることから、新たな産地化に向けてJ A全農あおもりと連携して進めている。

初めて作付けしたのは2022年、黒石市と平川市のは場計17.3㍍に、特に人気が高い「ハロウィンスイート」を植え付けた。23年は面積を拡大して26.7㍍で作付けし、約5トンのサツマイモを収穫した。初年度と比較して肥大が良く、品質的にも良好。

同J Aの施設で洗浄作業とキュアリング処理による品質確保の実証実験を行った。引き続きJ A内で検討を重ね、生産の安定化に向けて取り組み、国内外の販路開拓を進める。

同J A青果部の職員は「22年は栽培方法等の検討材料とするため、5地区の作付けほ場で実証実験を行い、23年は生産効率の良い地域で増産した。話題の品目であるサツマイモの安定生産技術を確立し、新たな産地化を目指していきたい。サツマイモ以外の品目についても、新規作物導入のための糸口を探り、農業経営の一助となれればと考えている」と話す。



試験ほ場でサツマイモを収穫するJ A職員

催事カレンダー

開催日時	J A名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
5月11日(土)	J A全農あおもり	全農杯2024年全日本卓球選手権(ホープス・カブ・バンビの部)青森県大会	スポカルイン黒石	広報宣伝総合課	017-729-8637	

後編 記集

春らしい季節、県内の桜もすでに葉桜となっているのかな？

今回の写真はNetflix独占配信の韓国ドラマ「涙の女王」です。結婚生活の危機を迎えた財閥家の夫婦の単なる再生物語と思いきや、登場人物がユニークでストーリーが抑揚に飛んで、気がつくまで集中して観てました。主演のキム・スヒョンとキム・ジウォン共に好演、可愛すぎます。

全16話、お薦め的一本です(他にもあるが)。
それでは皆様、「SEE YOU ON JUNE!」(一)



「涙の女王」 ©韓国TVドラマガイド ONLINE

ホームページアドレス

- J A青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・J A情報などをご覧ください。
- J Aバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJ Aバンクへのリンク等をご覧ください。
- J A全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
J A共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。